

リスクアセスメントシート No.

資料2-2

事業所名 工場)		職 場 名 (ライン)		対 象 工 程 設 備) 名		対 象 範 囲 (作 業)		作 業 標 準 (手 順)		実 施 日		実 施 者				
								有 無		年 月 日 (曜日)						
No.	装置名	⑤ 危 険 源	作 業 名	危 険 事 象	リスクの程度				現状の対策状況	現状の安全性評価	追加の安全方策	リスク低減したパ ラメーター)		妥 当 性 確 認	残留リスクに対する処置	
					①ケガの ひどさ	②発生 頻度	①+②	③リスク の大き さ				ケガの ひどさ	発生 頻度			

【①ケガのひどさ】

ケガの程度	点数
致 命 傷	10
重 傷	7
中 等 傷	4
軽 傷	1

【②発生頻度】

ケガの程度	点数
頻 繁 (1回/日)	4
時 々 (1回/週)	3
めったにない (1回/月)	2
ほとんどない (1回/年)	1

【④障害ランクの判定基準】

障害の程度	点数	判 断 基 準	備 考
致 命 傷	10	* 死亡災害 * 後遺障害等級 1～3級以上 (永久労働不能/損失7500日)	労働能力の全損
重 傷	7	* 入院を必要とし、全治1ヶ月以上 * 後遺障害等級 4～10級	労働能力の比較的大きな喪失
中 等 傷	4	* 入院を必要とし、全治1ヶ月未満 * 後遺障害等級 11～14級	労働能力の一部の喪失
軽 傷	1	* 入院を必要としない障害	赤チン障害を含む

* 障害程度区分と定義(判断基準)は、警察庁及び消防庁の定義を準用
* 「中等傷」は消防庁の用語から引用

【⑤危険源事象リスト】			
A 機械部品/加工物の危険源 1 形状 2 関連配置 3 重力エネルギー 4 運動エネルギー 5 機械的強度不足	D 電氣的危険源 1 充電部との接触 2 欠陥充電部との接触 5 溶接微粒子の放出、過負荷による熱放射	I 機械/材料による発生危険源 1 有害液体/気体/ミストの吸入 2 火災/爆発危険源 3 微生物危険源	M ひとつ又は複数危険源 1 機械停止不能 2 工具の回転速度の変化 3 動力供給の障害 4 制御回路の障害 5 取付けの誤り 6 物の落下、液体の排出 7 安定性の欠如/機械の転倒 8 滑り、つまづき、転落
B 機械内部蓄積エネルギー 1 弾性要素 2 加圧液体/気体 3 真空効果	E 熱的危険源 1 火災/爆発による燃焼危険源 2 高/低温作業環境の健康障害	J 人間工学無視の危険源 1 無理な姿勢 3 保護具使用の無視 4 局所照明の不足 5 精神的な過負荷、ストレス 6 ヒューマンエラー 7 手動制御器の不適切な設計 8 視覚制御器の不適切な設計	O 作業位置との関連 2 作業場所の排気ガス/酸欠 6 不適正照明 7 不適正な座席 8 作業位置での騒音
C 機械的危険源の基本形態 1 押しつぶし 2 せん断 3 切断/分離 4 巻き込み 5 引き込み 6 噛み込み 7 衝突 8 突き刺し 9 こすれ/すりむき 10 高圧流体の注入/噴出	F 放射による危険源 2 赤外線、可視光線、紫外線 5 レーザー光線	K 危険源の組み合わせ	P 制御システムによるもの 1 制御/操作装置の不適正位置
G 騒音危険源 1 聴覚障害他の生理的障害 2 会話や音声信号等の妨害		L 不意の起動/オーバーラン/スピード 1 制御システム故障 2 中断後のエネルギー再供給 6 オペレーターによるエラー	S 人の昇降による危険源
H 振動危険源 1 神経/血管疾患を生む振動工具 2 全身振動と不適姿勢			T 部品の機械的強度不足の危険源
U ブーリー、ドラムの不適切な制御			
* 1 ISO14121付属書Aの危険源/危険事象リストより当社に関係する内容を記載しています。 * 2 当社においては、C 機械的危険源の基本形態「6 噛み込み」追記し、以降の番号をずらしています。			